

日本化学会第 87 春季年会特別企画・プログラム

日本化学会第 87 春季年会 特別企画

多元素配位錯体化学の現状と今後

日 時：2007 年 3 月 27 日（火） 9：30～12：30

場 所：関西大学（大阪府吹田市）

種々の元素間の結合を思い通りに生成したり切断したりすることは、合成化学の究極の目標ともいえる。遷移金属錯体はこれを行う可能性を秘めており、実際に有機金属錯体は金属配位圏内で炭素同士の結合の生成や切断を可能にしている。炭素を含めた多くの典型元素間で望み通りの結合を形成したり切断したりするには、錯体における支持配位子、中心金属の種類や酸化数などを最適化して、望みの反応場を作り出すことが必要になる。本シンポジウムでは種々の元素間での結合形成と切断の鍵となる多元素配位錯体に焦点を当て、その現状と今後について第一線の研究者に講演をしていただき、これからの合成化学・錯体化学が進むべき方向を探っていく。

プログラム

9:30-9:35 趣旨説明（阪市大院理）中沢 浩

座長 巽 和行

9:35-10:10 協奏機能触媒の化学（東工大院理工）碓屋隆雄

座長 小澤文幸

10:10-10:45 カルコゲン架橋 W-Ru および Ge-Ru 複核錯体による水素分子の活性化-ヒドロゲナーゼ酵素機能との関連-（名大学物質国際研）巽 和行

座長 杉野目道紀

10:45-11:20 低配位リン化合物が創る新しい遷移金属錯体反応場（京大化研）小澤文幸

座長 中沢 浩

11:20-11:55 遷移金属ポリル錯体の生成を鍵とする触媒的カルボホウ素化反応の開発（京大院工）杉野目道紀

座長 飛田博実

11:55-12:25 ニトリルの C-C 結合を切断する鉄シリル錯体（阪市大院理）中沢 浩

12:25-12:30 まとめ これからの多元素配位錯体化学（東北大院理）飛田博実